



第1回ワークショップ ～半田市先進地視察～ を開催しました

身体にこたえる猛暑もようやく一段落しそうですが、いかがお過ごしでしょうか。

東浦町では、今年度と来年度の2ヶ年で、東浦町らしい景観を守り・育て・活かすための景観計画を策定していますが、その検討の場として町民ワークショップを設置し、各地区コミュニティ代表の6名と公募による6名の、あわせて12人でスタートしました。

8月23日(金)に第1回ワークショップが行われ、景観の取組みの先進地である半田市の半田運河周辺地区及び岩滑地区を視察しました。

①まずは、役場に集合。景観計画の策定やワークショップの開催主旨の説明を町から聞き、お互いに自己紹介しました。



②半田市役所に到着。半田市の担当の方から、半田市景観計画の策定の経緯や内容を丁寧に説明していただきました。



③景観形成重点地区のひとつである半田運河周辺地区を視察しました。運河と黒壁の蔵、町屋風の建物のまち並みを基本としたルールが設定されています。



④運河沿いの蔵や工場は、ルールに基づく建替えが進んでいました。まち並みの中の古い建物は、観光客向けの案内所として利用されていました。



⑤続いて、もう一つの景観形成重点地区の岩滑地区を視察しました。岩滑は新美南吉が生まれ育った地区であり、南吉童話にもその風景が描かれています。



⑥岩滑地区には農村集落の趣きを保全するためのルールが設定されています。市民にルールを理解してもらうための苦労や課題について、半田市の方が教えてくれました。



⑦とても暑い中での視察でしたので、みなさんお疲れぎみでしたが、帰りのバスの中では、視察の感想やワークショップへの期待などを書いていただき、無事終了しました。



《ワークショップ参加者のみなさんによる視察の感想(抜粋)》

- 半田市の方の説明で景観形成のイメージがわかった。景観は長い年月がかかると思った。
- 半田市の方が理想と現実の厳しさも話してもらえて参考になった。
- 話題の場所を見学できてよかった。
- 特定のエリアに限定して計画を作成するのもよいと思った。
- 景観づくりは非常に難しい。地区指定しても守られないことがあるようだ。
- 景観を損なわない建物をどうやって建ててもらおうかということが大変だと思った。
- 「景観のあるべき姿」を過去に考えたことがなく、どんな点が問題なのかまだよく判らない。
- 権利の制限と個人の自由の範囲がむずかしいと思う。

《今後の予定》

【景観講演会】9月7日(土曜日) 13時30分から15時

勤労福祉会館 会議室C

「景観と私たちの暮らし」 岐阜大学准教授 出村嘉史さん

【第2回ワークショップ】9月14日(土曜日) 10時から12時

東浦町役場 西会議室1

「東浦町のよい景観・守るべき景観を探す」

